

# 第6講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

これも今は昔、比叡の山に児ありけり。僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせん」と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。さりとて、しいださんを待ちて寝ざらんもわろかりなんと思ひて、かたがたに寄りて、寝たるよしにて、いでくるを待ちけるに、すでにしいだしたるさまにて、ひしめきあひたり。

この児、定めておどろかさんずらんと、待ちゐたるに、僧の、「もの申しあぶらはん。おどろかせたまへ」と言ふを、うれしと思へども、ただ一度にいらへんも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひと声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、「や、な起ことしたてまつりそ。幼き人は寝入りたまひにけり」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、すべなくて、無期の後に、「えい」といらへたりければ、僧たち笑ふことかぎりなし。

〔現代語訳〕

これも今では昔のこと、比叡山の寺に一人の児がいた。僧たちが、宵の暇にまかせて、「さあ、ぼたもちを作ろう」と言つたのを、この児は、心に期待して聞いていた。そうはいつても、できあがるのを待つて寝ないでいるのも具合が悪いだろうと思つて、(部屋の)片すみに寄つて、寝ているふりをして、できあがるのを待つていたところ、もうできあがつた様子で、ひしめき合つてさわいでいる。

この児は、きつと起こそうとするだろうと、待つていたところ、僧が、

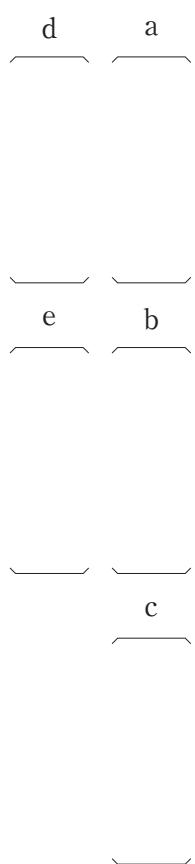
5

「A」と言うのを、うれしいとは思つたが、たつた一度(呼ばれた)だけで返事をするのも、待つていたのかと思うかもしれないと思つて、もう一度呼ばれてから返事をしようど、がまんをして寝てゐるふりをしているうちに、「B」。幼い人は寝入つておしまいになつた」と言う声がしたので、ああ、困つたと思つて、もう一度起ことしてくれよ、と思いながら寝たふりをして聞いていると、むしゃむしゃと、しきりに食べる音がしたので、どうにもがまんができなくなつて、かなり時間がたつてから、「はい」と返事をしたので、僧たちはとめどもなく笑つた。

15

問一 A～Eの主語はだれ(何)ですか。古文中からそれぞれ書

き抜きなさい。



問二 現代語訳の中のA・Bにあてはまる言葉として最も適当な

ものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 何か言つて、おどろかせてください

イ おや、何か言つたようだ、大声を出しておどろかせてやろ

う

ウ もしもし、目をさましてくださいませ

エ 寝てばかりいるのはけしからんことだ、きつくし  
かつてやろう

B  
ア さあ、起こしてやりなさい

イ いやいや、お起こしなさい

ウ いやいや、もう起こしてさしあげなさい

エ なぜ、起こしてくださらないのでですか

問三 線①「いまひと声呼ばれていらへん」には、児のどんな気持ちが表れてますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 久しく時がたつてしまつたので、返事をしないほうがよいと思う気持ち

イ すぐに返事をすると、いやしく思われはしないかと気にする気持ち

ウ 待ちくたびれてしまつて、もう返事をするのもめんどうくさい

という気持ち

エ 眠くてたまらないので、もう一度呼ばれるまで、うたた寝しようという気持ち

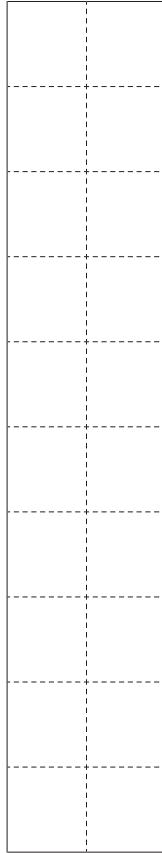
ウ あれこれと考えすぎるためにつまらない失敗を重ねながらも、成長していく児を見守っている周囲の僧たちの優しさ

エ 期待を隠し、自然なりゆきでぼたもちを食べたいと思つて取つた児の行動が裏目に出で、不自然な形になつてしまつた滑稽さ

問六 この話のおもしろさは、どのようにありますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 児の策略を見抜いた僧によつて、児がその欲の深さゆえに予想もしない形で全員の笑いものになつてしまつた痛快さ

イ 子どもでありながら自分の素直な気持ちを表そうとせず、様々に考えをめぐらし、最後には恥ずかしい思いをして反省する児の純朴さ



問五

僧たちが笑つたのはなぜですか。その理由を表している部分を古文巾から十五字以上二十字以内で書き抜きなさい。

問四

線②「食ひに食ふ音」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(1) 次のことわざ・故事成語ことわざ・故事成語

(2) 次のことわざの□にあてはまる漢字を書きなさい。

① 雨だれ

□をうがつ

② □

うより慣れろ

③ 口はわざわいの

□

から出たさび

- ① 他山の□  
ア 門 イ 石 ウ 里 エ 四  
② 朝三暮□  
イ 石 ウ 里 エ 四

①
②

## 練習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

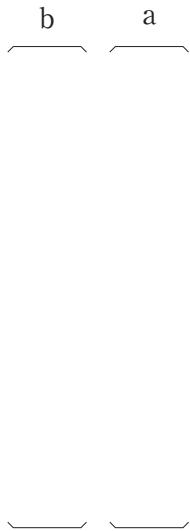
〔古文〕

さて物語は、もののあはれを知るを、むねとはしたるに、そのすぢにいたりては、儒仏の教へにはそむける事もおほきぞかし。<sup>a</sup>そはまづ人の情の、物に感ずる事には、善惡邪正さまざまある中に、ことわりにたがへる事には、<sup>b</sup>感<sup>c</sup>づまじきわざなれども、情は、我ながらわが心にもまかせぬことありて、おのづからしのびがたきふし有りて、感ずることあるものなり。

〔現代語訳〕

さて、物語というものは、もののあわれを知ることを、主要な事がらとはしているのであるが、そのあらすじということになると、儒教や仏教の教えに A ことも多いものであるよ。そのわけは、まず人間の心が、（何かの）物事に感じる場合には、善惡邪正いろいろある中で、<sup>⑩</sup>道理に反することには、感動するはずはないわけであるが、心というものは、<sup>5</sup>B ところがあつて、（どうかすると）自分で抑えがたいものがあつて、（道にそむくことにも）感動することがあるものだからである。

問一 線 a ~ c をそれぞれ現代かなづかいに直して書きなさい。



問二 線①「物語」において、大切にされているのはどんなことだと述べていますか。現代語訳中から十一字で書き抜きなさい。

問三 線②「むね」とは何ですか。現代語訳中から六字で書き抜きなさい。

問四 線③「すぢ」とは何ですか。現代語訳中から書き抜きなさい。

問五 線④「そむける」の現代語訳が A にあてはまります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 反する

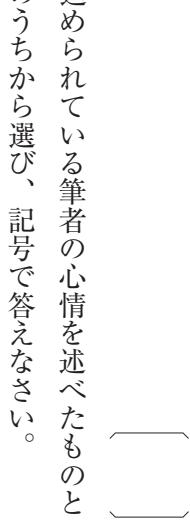
イ 導かれる

ウ 賛同する

エ 見習う

問六 線⑤「ぞかし」に込められている筆者の心情を述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア それほど重要ではないことを読者に示そうとしている。



イ とても意外だということを読者に示そうとしている。

ウ どうすればよいかと読者に問いかけている。

エ 特に強調して読者に示そうとしている。

問七 線⑥「そは」の「そ」の指している内容を現代語で書きなさい。

問八 線⑦「感ずまじきわざなれ」とありますが、どんなことに感

動するはずはないというのですか。現代語訳中から八字で書き抜きなさい。

問九 線⑧「我ながらわが心にもまかせぬ」の現代語訳が□B□に

あてはまります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 何でも自分の思いのままになる

イ 自分でも自分の思うとおりにいかない

ウ 自分の思うとおりになるはずがない

エ 自分の思うとおりになりそうだ

問十 線⑨「おのづからしおのがたきふし有りて」とありますが、

どういうことですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 理屈だけでは割り切れない、どうしようもない気持ちがあると

いうこと

イ どんな人にも、つつみかくしておきたいことがあるものだということ

ウ どんなことであっても、道理に反するものには感動しないということ

エ どんな気持ちであっても、理屈による説明が可能であるということ

問十一 線⑩「道理」は、古文ではどう表されていますか。古文中

から四字で書き抜きなさい。

問十二 この文章の要旨として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人間には道理に反することを好む傾向があるので、そうした傾向を正すためにも、儒仏の教えにもとづいた物語を読まなければならぬ。

イ 物語のあらすじが儒仏の教えに反することがないように、物語の作者は儒仏の教えについてふだんから学習しておくことが大切である。

ウ 物語に儒仏の教えに反する面が多いのは、道理に反することだとわかっていても、人間の心は感動することがあるからである。

エ 物にふれて起こる感動を抑制するものが、人間の理性や意志といふものであり、物語にもそれを主題にした作品が多く見受けられる。